

宮城県土木部との意見交換会

広報委員長 高橋 克実

1. はじめに

宮城県土木部と当協会の意見交換会が、平成25年12月18日(水)13:30～15:00に宮城県建設産業会館にて開催されました。その内容を以下にご報告いたします。

2. 出席者

宮城県土木部からは、次長(技術担当)久保田 裕 様、事業管理課長 相澤義光様、事業管理課技術副参事兼技術補佐(総括担当) 丹治一也様、事業管理課技術補佐(工事管理班長) 菊地 潤様、事業管理課技術補佐(技術企画班長) 熊谷滋雄様、事業管理課主任主査(技術企画班) 葛西良典様の6名がご出席されました。

当協会側からは、高橋理事長、大友理事・総務委員長、新田理事・技術委員長、早坂宮城県理事、熊谷宮城県理事、蓑 宮城県理事、東海林事務局長、高橋の8名、記録係として真坂広報委員、羽生田広報委員が出席しました。

3. 主な内容

大友総務委員長が司会を担当し、久保田次長と高橋理事長による冒頭挨拶と出席者の紹介の後、久保田次長から「東日本大震災からの復旧・復興事業の進捗状況について」「東日本大震災からの復興に向けて」と題し、県側でご用意いただいた資料をもとに、東日本大震災からの復旧・復興事業の進捗状況やそれぞれの施策の特徴や事業予算などをご紹介いただきました。また、当協会からは、新田技術委員長が、会員の技術力向上のための活動や「地質調査」を広く理解してもらうために取り組んでいる対外的

な講習会の開催・機関誌発行による啓発活動などを紹介しました。

意見交換では、当協会が提示した①地質調査業務の発注方式について、②復興事業計画と今後の見通しについて、③その他として主に設計積算についての3項目を中心にして率直な討議がなされました。当協会の提示と県側の回答は以下のとおりです。

①発注方式については、当協会が建設関連業務を一括発注せずに、設計、調査など専門分野ごとに分離発注することや、プロポーザルや総合評価方式の導入を要望したのに対し、県側からは、発注方式別に、指名競争入札が74%(781件)、随意契約が19%(204件)、一般競争入札が7%(72件)と基本的には指名競争入札の発注方式となっている現状を報告いただきました。総合評価方式については平成21年度から試行的に導入しているが、地質調査業務についての導入は現時点で実績がないとのこと、プロポーザル方式はこれまで土木分野での実施例がなかったが、東部土木事務所管内でCM方式により3件の公告手続きを進めているとのことでした。今後の取り組みとして、震災の状況や対象とする業務の内容をふまえて新しい取り組みや適切な発注方式を選定しようと考えているとのことでした。そのなか、測量設計業務と地質調査業務の分離発注については、今までも業務の形態とか、地質調査できちんと評価してもらいたい内容の業務については単体でお願いしていた。他方、地質調査と構造物の設計が一体でやった方が良いものについては、一体的な発注の形をとっているが、基本的には各々の得意分野ごとに発注する姿勢に変わりはないとの回答をい

いただきました。

②復興事業計画と今後の見通しとして、当協会が復旧・復興関連の地質調査業務が大量に発注され、ボーリングマシンとそのオペレーターの不足している現状とともに、今後においても発注量の増大が予想されるため、十分な履行期間の設定、工期・納期の延長などの柔軟な対応を要望するとともに、中長期的に、パートナーとして、ともに事業の進捗率を高める方法はないのかという率直なお願いをしました。県側からは、短期的には復興関連業務があり、災害協定にもとづく土砂災害危険箇所の調査を始めとする当協会員の各方面での活躍に感謝することのお話をいただくとともに、今後も、災害公営住宅、道路ネットワーク整備関連や広域防災拠点整備関連などにくわえ、老朽化した社会インフラの更新で過去のデータがないケースがあることから、中長期的に長寿命化や耐震化関連の新たなニーズが出てくるとの見方を示していただきました。

③その他として、当協会が資機材・人件費の高騰による設計積算の見直し(発注単価への適切な反映)を求めたのに対し、県側は、被災3県で市場、実勢で乖離している具体的なデータがあれば共同で国交省へ要望できる流れもある。データを集めて提供をしていただければ、出来る限りのことに応えたいと呼び掛けていただきました。その他、オールコアボーリング単価の導入についてと災害協定の今後のあり方などについて討議し、災害協定については、県側から東日本大震災の教訓を踏まえ必要な見直しを図り、より効率的、迅速的に対応できる方向について検討しているとの回答をいただきました。

最後に、高橋理事長が県側に対し、当協会は震災の復旧・復興だけでなく、地盤の専門家として県民の命を守っていくのが使命であることをアピールし、議事を終えました。

4. 謝辞

当協会との意見交換会を快く承諾され、資料作成など意見交換会当日までに多大の準備と意見集約にご協力をいただいた宮城県土木部の関係各位に厚く御礼申し上げます。また、記録・写真係を担当していただいた真坂委員、羽生田委員の広報委員各位に心より感謝いたします。



ご挨拶される久保田次長とご臨席の宮城県土木部各位



会場での意見交換の様子